

---

# ツアラーX

柊拓也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ツアラーX

### 【Nコード】

N3713H

### 【作者名】

柊拓也

### 【あらすじ】

主人公は型落ちのエボ9で現行のハイパワー車に立ち向かった行  
くが・・・

## ACT01「プロローグ」(前書き)

峠で掟破りと言われているランサーだが、好きなら乗っていても良いじゃないみたいな話だから5年前に生まれた小説を再編集して送りします。

### 登場人物

深川 零 年齢18歳。 三菱 ランサー Evolution 9 GSR (2006) に乗る。 天性のテクニクを生かして峠を縦横無尽に駆けぬける。

加藤 和義 年齢23歳。 三菱 ランサー Evolution 10 GSX SST (2009) に乗る。 堅実な走りに定評のあち頼りがいもある、矛根クロスファイア代表。

野村 光 年齢20歳。 マツダ RX-7 Type R Z (1993) に乗る。 直感のままに走る天才タイプ。

朝霧 マナ 年齢18歳。 三菱 ランサー 1800 GSR (1994) に乗る。 WACのような確実ではやい走り方が得意

柊 拓也 年齢18歳。 ホンダ シビック Type R M-TEC MUGEN RR (2007) に乗る。 コース幅を目一杯使った走法が得意。

一条 春香 年齢18歳。 ホンダ NSX-R (1995) に乗る。 限界を超えたときの挙動がピーキーなミッドシップを直感と腕でカバーする。

## ACT01「プロローグ」

ACT 0「駆けるダウンヒルナイト」

この物語の主人公深川 零はバイト先で一台の車を見つめていた。

三菱ランサーエボリユーシヨン9（2006）である。今日、零の元に届けられた物だ。

零はおもむろに運転席に乗り込むとポケットからキーを出しエンジンをかけた

短いセルモーター音の後4G63サウンドが聞こえてきた。零の顔には自然と笑顔があった。

あれから数ヶ月

RX-7 TypeRZ（1993） VS T-TEC MUG  
ENN RR（2007）

零は光から預かった（光はドイツに留学中あと一週間で帰国）RX

-7で矛根峠を攻め込んでいた。すると後ろからNAの甲高いエキゾーストノートが聞こえてきた。

そのクルマはぴたりと後ろに付くとハザード2回点滅、バトルの申し込みである。

零はハザード1回点滅で了承を伝える

矛根峠（旧道）の頂上ストレートを全開で駆けぬける2台、車種はどうやらシビックTypeR FD2のようだ。勢いよく1コーナーに飛び込んでいく2台。さすがにコーナリングスピードではFD2には勝てない。ジリジリと食いつかれている。零は慣性&クラッチ蹴りで、きれいに流すがFD2は離れるどころかあおっている。

この矛根峠の特徴は狭く曲がりくねった前半セクションと後半の大きく回り込んだ6つのヘアピンとその後待ち構える30メートルほどのストレート、そして最終コーナーである。また全体的に砂が

多く特に最終コーナーのアウト側は砂の量が多く危険なコーナーとして有名である。

零は1つ目のヘアピンをサイドターンでFD2は同じくサイドを引いて小さくまとめる。2つ目のヘアピン、FD3SがストレートでFD2を少し離すがブレーキングで並ばれる。しかし、零が強引にインに飛び込みイン側FD3S、アウト側FD2の体制で立ち上がるがFD3Sのリアタイヤがグリップを失いスピン……。FD2はいとも簡単にFD3Sとガードレールの隙間を走り抜けた。

零「はあ……。はあ……。姉さんみたいには行かないか」

少し先にクルマを止めてドライバーが走ってきた。

拓也「大丈夫か？」

零「あ……。ああ……」

零はFDから降りて1回伸びをした

拓也「タイヤか？」

零「いや……。俺の腕だよ。アクセルワークがヘタなだけ……。俺の車じゃないしぶつけなくて良かった」

拓也「へえ、じゃあ普段は何乗ってるの」

零「俺のじゃないけどランサーエボリューション9だよ……。つておまえ、拓也じゃないか！」

拓也「やつと気づいたか……。この天然め」

翌日

零は久しぶりに朝からクルマに乗っていたしかしRX-7ではなく、ランサーに

隣には見慣れない女が乗っているのが普通ではないか？

零「しかし、久しぶりに朝から遠出だな」

??「ここところは、町乗りにしか使ってくれなかったもんね」  
彼女は自分をクルマと同一視しているのではなく彼女自身がクルマなのだ。

昔から日本人は物を大切にする習慣があるが大切にされた物や特別な思い入れがある物には何かしらの感情が宿ると信じられている。

それが世に言う付喪神つくもがみと言う奴である。正確には付喪神つくもがみ（つくもがみ正式には九十九と書く）とは、日本の民間信仰における観念で、長い年月を経て古くなったり、長く生きた依り代（道具や生き物や自然の物）に、神や靈魂などが宿ったものの総称で、荒ぶれば（荒ぶる神・九尾の狐など）禍を齎し、和ぎれば（和ぎる神・お狐様など）幸を齎すとされる。

ちなみに愛称はメイブ（風の女王とされている）。零曰く低速域から高速域まで優れた空力特性を発揮するからとか。拓也としての評価はイマイチだが……

メイブ「あーあー、この頃運動不足かな。どうもMIVECがイマイチビーンと効かないな」

零「じゃあお望み通りにしてやるよ」

零は高速道路の料金所でギアを3速から2速に1つギアを落として、ETCノ一般レーンへ、一気に全力全開加速へ最大トルク50.8kgの大トルクで一気に3速へシフトアップ……

メイブ「ねえ、後ろのGDB-F、あおってるよ」

零「うん、あおってるね」

零はスツと左の走行車線に行く

メイブ「先に行かせるの？」

零「やるだけ無駄、燃料の無駄、タイヤの無駄、反エコロジー極まりねーよ」

零のランサーエボリューション9 GSRはランエボに搭載されるエンジンとして初の連続可変バルブタイミング機構MIVECを採用した最強モデル。最大トルク（GSR）40.8kgm、RS＜41.5kgm）発生回転数がエボVII MRの3500rpmから3000rpmに下がり、また今回からターボのコンプレッサーハウジングを変更、コンプレッサーホイールにマグネシウム合金を（GSRではオプションとして）採用し、従来のアルミニウム合金よりもレスポンス向上を図った。その結果、低速トルクのアップ及びトルクバンド幅の増大と高回転域での高次元でのレスポ

ス向上を実現した（但し、エボIXに搭載されているMIVECは、ミラージュサイボーグRやFTO等に装着されていた、低回転と高回転のカムシャフトを切り替え、吸排気バルブの開閉量とタイミングを変えるVTECのようなMIVECとは違い、リフト量の変化は行わず、吸気側のみ連続可変バルブタイミングとなるのが大きな違いである）。ちなみに零のランサーには純正のチタンブレードタービンが使用されている。

一方GDB-Fは限定50台のインプレッサWRX-STI スペックC TYPE RA-Rである。アストラルイエロー子会社のスバルテクニカインターナショナル（STI）が、独自の仕様に仕上げたモデルで、300台を生産して販売するという。外観の特徴としては、高速走行時のフロントの接地性を高めるフロントアンダースカートを装備していること、専用ボディ色として「アストラルイエロー」を50台限定で設定していることなどで、モータースポーツの現場でSTIが得たノウハウをフィードバックしたモデルに仕上がっている。また、ベース車には標準装備となっている大型リヤスポイラーは非装着として車重の増加を抑えている（この作品で登場するType RA-RにはWRカータイプリアスポイラーが装着されている）。エンジンは、最高出力320馬力、最大トルクが44.0kg・mを発揮する。メカニズム面ではターボチャージャーのタービン径を大型化するとともにタービンブレードの形状や枚数を変更して、低回転域から高回転域までの優れた出力特性を実現した。らしい。

零は湾岸線方面に走っていったGDB-Fを横目で見ていた。

メイブ「ねえ、なんで私を選んだの？」

零「気に入ったから」

メイブ「ふーん」

零「他に何か理由いる？たとえばブレイ顔が嫌いだったからとか」  
メイブ「いや、それは言わなくていい・・・」

零「ん・・・ロータスか」

同じ車線の3台前にいたブルーの小型スポーツカーを見ながら零が言う

メイブ「あれがロータス？」

零「そう、ロータス ヨーロッパ S 2・0 SE クーペ」

この先どうなる事やら

続く

## ACT01「プロローグ」(後書き)

さすがに5年前に書いた小説を書き直していると意外と洗って出てくる物なんです。名前だけはブログに書いていた小説の番外編で書いたんですが、久しぶりで楽しんでいます。次の回では筑波サーキットで赤い牛な悪魔とガチンコバトルします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3713h/>

---

ツアラーX

2010年10月10日01時10分発行